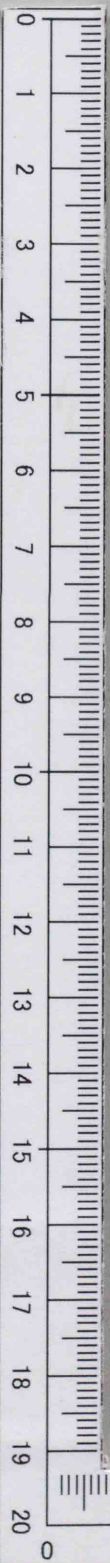
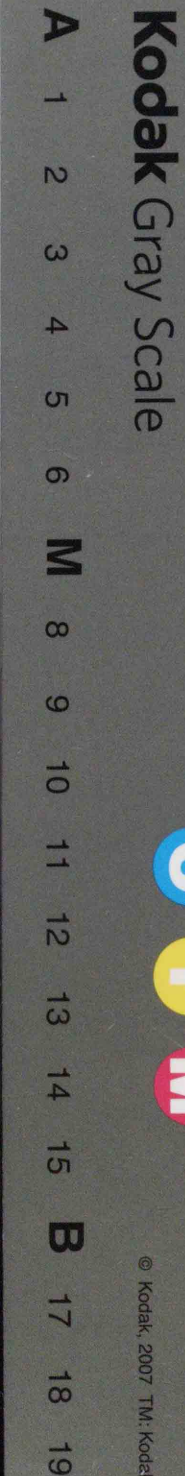
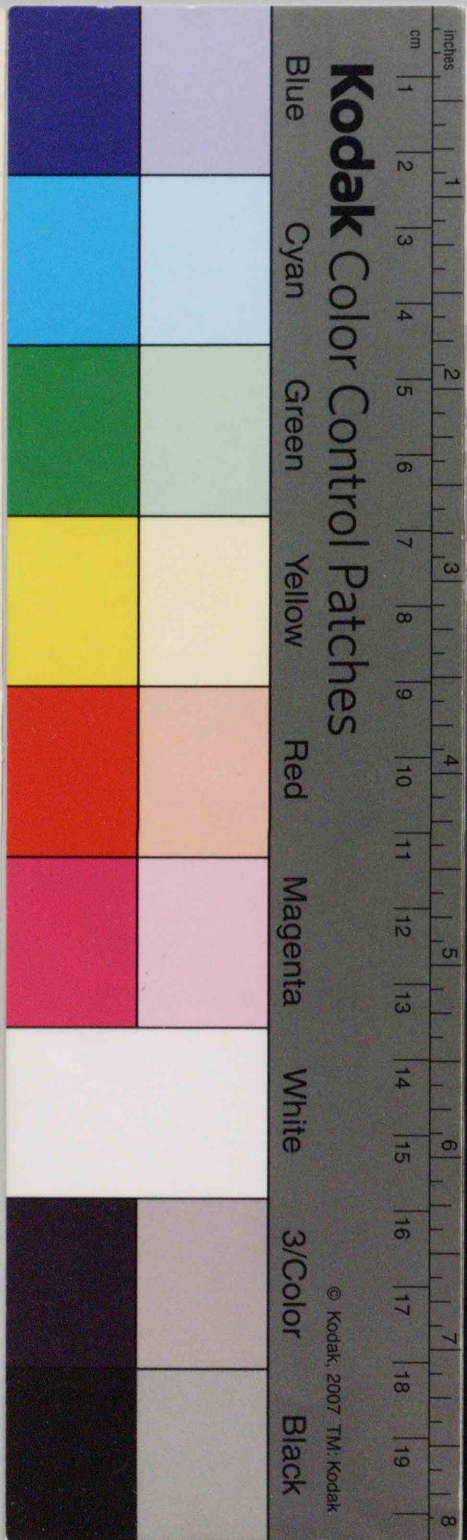


41110

教科書文庫

4
670
32-1932
20000 48171



田中満三著

高等小學

簿記書



東京

彰文館發行



資料室

教科書文庫

4

670

32-1933

2000048171

昭和八年
一月十二日

文部省檢定済

高等小學校
商業科兒童用

高等小學

簿記書

田中滿三
著

見
乞
御
採
用

東京
章文館發行

広島大学図書

2000048171



2



卷二目次

第一課	勘定科目の意義及設定上の注意	I
第二課	勘定科目の種類	2
第三課	資産負債勘定	4
第四課	損益勘定	11
第五課	資本勘定	14
第六課	帳簿組織	17
第七課	仕譯帳	20
第八課	元帳	24
第九課	補助帳簿	30
	練習問題	34
	基本問題	36
第十課	決算手續	41
第十一課	試算表	42
第十二課	棚卸表	45
第十三課	帳簿の締切	46
第十四課	損益計算書	48
第十五課	貸借対照表及財産目録	50



高等小學
簿記書

卷二

第一課 勘定科目の意義及設定上の注意

勘定科目の意義 勘定科目は帳簿記入の単位になるものである、即ち財産及び資本を区分し同種類のものを集めて帳簿へ記入及び計算の便宜を計るものである。例へば現金勘定、商品勘定、資本勘定のやうなものである。従つて營業の種類によつて勘定科目を適當に設くべきである、又同じ營業であつても其の規模の大小に應じて勘定科目の數を適當に定めることが必要である。

勘定科目設定上の注意 勘定科目は帳簿記入の単位になるものであるから、營業の種類大小に應じて適當なものを注意深く定め、永く之を存續しなければならぬ。

簿記書卷二目次

例題記帳の一.....	52
" " 二.....	54
" " 三.....	56
第十六課 仕譯帳の分割.....	60
基本問題	62
練習問題	65
例題記帳の四.....	66

—— 終 ——

第二課 勘定科目の種類

勘定科目は一般に次の通り分類する。

- 1) 資産勘定 現金、商品、建物などの資産に属するもの。
- 2) 負債勘定 借入金、支拂手形などの負債に属するもの。
- 3) 損益勘定 営業費、利子、保険料、手数料などの損失又は利益を生ずるもの。
- 4) 資本勘定 資本金、引出金

猶ほ資産勘定と負債勘定とを纏めて資産負債勘定又は財産勘定とし、資本勘定に損益勘定を含めることもある。

次の表は勘定科目を貸借対照表に記載されるものと元帳の損益口座に轉記されるものとの二大別したものである、貸借対照表の借方は資産勘定が、貸方は負債勘定、資本勘定が記載される、又損益勘定の損失の部と利益の部とに記載されるものを明かにした。

勘定科目一覧表

借方	貸借対照表	貸方
資産勘定 現金 預金 受取手形 有價証券 貸付金 商品 什器 土地建物 人名勘定		負債勘定 支拂手形 借入金 人名勘定
		資本勘定 資本金 引出金
純損金		純益金

損失の部	損益勘定	利益の部
損失勘定 営業費 税金 利子及割引料 手数料 運賃 保険料 倉敷料 雑費		利益勘定 利子及割引料 手数料
純益金		純損金

第三課 資産負債勘定

現金勘定 現金の収入、支出を整理する勘定である、収入の金額を借方に、支出の金額を貸方に記入する、但し他人から受取つた小切手、郵便爲替證書、送金手形などは直に現金に替へることが出来るものであるから此の勘定で整理する、又借方は収入の金額であるから常に貸方にある支出の金額を超過して其の差額即ち残高は手許有高を示すものである。

- 例 1. 商品を現金で仕入れる 商品—現金
 2. 商品を販賣し代金として小切手を受取る

預金勘定 預金を整理する勘定である、銀行へ預金したとき借方に、引出したとき貸方に記入する。

- 例 3. 預金として現金を預ける 預金—現金

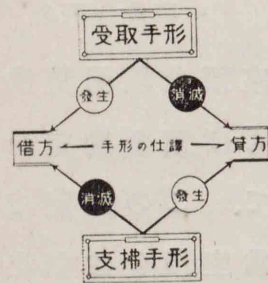
- 例 4. 預金を引出す 現金—預金

當座預金勘定 銀行と當座預金取引契約をしたならば預金勘定から引離して、この勘定で整理するのが便利である、當座預金は引出しるとき銀行預金帳を用ひずに小切手を使用する。

- 例 5. 商品を仕入れ代金を小切手で支拂ふ 商品—當預
 6. 掛代金を小切手で受取り、直に當座預金に振替へる 當預—人名

受取手形勘定 受取手形とは自分が手形代金を受取るべき爲替手形、約束手形をいふ、受取手形を受取つたとき借方に、其の代金を受取つたとき又は他人に譲渡したとき貸方に記入する。

- 例 7. 商品を販賣して其の代金として爲替手形を受取る 受手—商品
 8. 右手形代金を現金で受取る 現金—受手



例 9. 商品を販賣し其代金として
約束手形を受取る 受手—商品

" 10. 右手形を上田屋へ譲渡す
上田屋—受手

支拂手形勘定 支拂手形

(借方) (負債) (貸方) 此は自分
手形金額支拂 手形の振出
手形の引受 手形の引受 が代金を

支拂べき爲替手形約束手形をいふ、支拂手形を振出し、又は引受けたときは貸方に、其の金額を支拂つたときは借方へ記入する。

例 11. 商品を仕入れ其の代金として約束手形を振出す
商品—支手

" 12. 右手形金額を現金で支拂ふ 支手—現金

" 13. 大井商店振出し當店宛の爲替手形に引受をする
大井商店—支手

" 14. 右手形金額を小切手で支拂ふ 支手—當預

有價證券勘定 公債證書社債券株券な

(借方) (資産) (貸方) どの有價證券を買入れ
買入 | 賣渡 たときは買入價格を借

方に、賣渡したときは賣渡價格を貸方に記入する。

例 15. 甲號公債額面壹千圓を百圓につき九拾圓替で買入れ現金にて支拂ふ

有價證券 y 900.00 現金 y 900.00

" 16. 同公債を百圓につき九拾貳圓替で賣渡し現金を受取る

現金 y 920.00 有價證券 y 920.00

この勘定は何れも賣買價格で記入するのであるから、決算の場合には手持品を時價で評價して賣買損益を計算する。

貸付金勘定 掛賣でなく他人へ金を貸付

(借方) (資産) (貸方) けたときは借方に、支拂
貸付 | 返濟 はれたときは貸方に記入

する、故に残高は常に借方にあつて貸付金の残高を示す。

例 17. 吉本正一へ現金を貸付けす 貸付金—現金

" 18. 同人から貸付金を返濟さる 現金—貸付金

借入金勘定 掛買でなく他人から金錢を

(借方) (負債) (貸方) 借りたとき此の勘定の貸
返濟 | 借入 方に、支拂つたとき借方

に記入する、故に残高は常に貸方にあつて

借入金の未拂金額を示す。

例19. 三井銀行から公債證書を擔保として現金を借入れた
現金—借入金

" 20. 三井銀行へ借入金を現金で支拂ひ擔保品として差
入れたる公債證書を受取る 借入金—現金

商品勘定 商品を仕入れたときは仕入價
(借方) (資産) (貸方) 格を借方に、賣上げたこ
買入 賣渡 きは販賣價格を貸方に記
入する、仕入のときに支拂ふ車力賃、荷造費
などの諸掛りは之を商品の代價の一部と見
て其の勘定の借方に記入する。

例21. 商品壹千五百圓を現金で仕入れた
商品 ¥1,500.00 現金 ¥1,500.00

" 22. 同商品の内壹千圓を現金で販賣した
現金 ¥1,000.00 商品 ¥1,000.00

仕入價格と販賣價格とは相違するもので
あるから此の勘定の残高は借方に現れる場
合が多い、然しこの残高の中には賣買利益
が含まれてゐるから手許商品の金額でない、
其れ故に手許商品の金額を知るには棚卸を

しなければならない。

$$\text{仕入額} + \text{賣買利益} = \text{賣上額} + \text{棚卸額}$$

の式により

(借方)	商品勘定		(貸方)
仕入額	1,500.00	賣上額	1,000.00
賣買利益	300.00	棚卸額	800.00
	<u>1,800.00</u>		<u>1,800.00</u>

人名勘定 仕入先又は得意先(販賣先)との
(借方) (資産・負債) (貸方) 間に掛賣買を生じ
掛賣 掛賣金返濟 た場合に相手の人
掛買金支拂 掛買 名又は商號を勘定
(金を受取る権利) (金を支拂ふ義務) 科目として掛賣金
や掛買金を記入する、これ等の人名又は商
號の勘定科目を總稱して人名勘定と云ふ。

掛賣金額及び掛買の支拂金を借方に、掛
買及び掛賣の返濟金額を貸方に記入する、
其れ故に人名勘定の残高が借方にあれば、
その商店の掛賣金の残高を示し、又貸方にあ
れば掛買金の未拂高を示すものである。

而して掛賣金の貸借は資産勘定に屬し、
掛買金の貸借は負債勘定に屬する。

- 例23. 原商店へ商品を掛で賣渡す 原商店—商品
 " 24. 同店から掛賣代金を受取る 現金—原商店
 " 25. 岡商店から商品を掛で買ふ 商品—岡商店
 " 26. 同店へ掛買代金を支拂ふ 岡商店—現金

什器(土地建物)勘定 什器(土地建物)を買入
 (借方) (資産) (貸方) れたときは借方に、賣拂
 買入 | 賣拂 ったときは貸方に記入す
 る。

- 例27. 什器(土地建物)を買入る 什器—現金
 " 28. 不用になりたる什器を賣拂ふ 現金—什器

什器及び土地建物は使用するに従つて價
 格が減損するものであるから決算の場合に
 は減價額を見積つて此の勘定の貸方に記入
 して現在記帳されてゐる價格から差引く。
 之を減價銷却と云ふ。

第四課 損益勘定

(借方)	(貸方)
損 失	利 益

損益勘定 は資本金の増加若くは減少の
 原因を作る勘定科目である、損失は借方に
 記入されて資本金の減少を示し、利益は貸
 方に記入されて資本金の増加を現はすもの
 である。

營業費勘定 營業を行ふために要する諸
 費用を整理する勘定である、其の支拂は損
 失であるから借方に記入する、其の重なる
 ものは家賃給料廣告費、通信費、車馬賃、筆墨紙
 などである。

- 例29. 廣告のための印刷代及び通信費を現金で支拂ふ
 營業費—現金

税金勘定 營業稅、所得稅、登録稅などを納
 めたときは損失であるから此の勘定の借方
 に記入する、商店によつては營業費勘定で

税金を整理するところもある。

利子及割引料勘定 受取った利子及び割引料は利益であるから貸方に、支拂った利子及び割引料は損失であるから借方に記入する、手形所持人が手形金額を支拂期日前に受取るときは手形金額から支拂期日までの利子を差引かれるのである、其の利子を割引料といふ。

例30. 原商店から同店への掛賣金に對し、約束手形金八百圓を受取り三井銀行に割引を依頼し、手取金は當座預金に振込む。割引料貳拾圓

割引料 ¥ 20.00 受取手形 ¥ 800.00
當座預金 " 780.00

手数料勘定 他人の依頼によつて商品の賣買を世話した場合に報酬として手数料を受取る、利益であるから此の勘定の貸方に記入する。

運賃勘定 賣渡した商品を先方へ送り届けるために支拂ふ費用である、損失である

から此の勘定の借方に記入する、然し仕入れた商品は其の運賃を買入代金の一部として商品勘定で整理する。

例31. 商品を販賣して運賃を現金で支拂ふ

運賃—現金

保険料勘定 家屋、商品、什器などに保険を付けた場合に保険料を支拂ふ、保険料は損失であるから此の勘定の借方に記入する。

倉敷料勘定 商品を倉庫に預ける場合に其の保管の料金として倉敷料を支拂ふ、倉敷料は損失であるから、此の勘定の借方に記入する。

雑費勘定 大商店などに於て營業費勘定に屬する給料、廣告費、瓦斯電燈料などを別々に分けて、それぞれの勘定科目を設けて整理することがある、この場合に於て其の他の營業費について雑費勘定を設けて整理する、損失であるから借方に記入する。

第五課 資本勘定

この勘定は資本主との関係を示すものである。

資本金勘定 資本金は正味財産で損失又
(借方) (貸方) は利益の生ずる毎に増減
引出(合計) 元入 する、然し之は別に損益
利益 示す勘定を設けて記入し、資本金勘定へ
は、始めて元入した場合や引出した場合に
記入する、又決算の結果営業上の損益が計
算されたならば之も亦此の勘定に振替られ
る。

例32. 現金貳千圓を元入して營業を始む

現金—資本金

例33. 現金壹千五百圓、有價證券五百圓を元入した

資本金勘定

諸口	資本金	¥ 2,000.00
現金	¥ 1,500.00	
有價證券	" 500.00	

資産の元入と同時に負債も引繼いた時は
資産勘定を借方に、負債勘定を貸方に記入
して其の差額を資本金勘定の貸方に記入す
る。

例34. 現金參千圓を元入し掛買金壹千圓を引繼いで營業
の讓渡を受ける

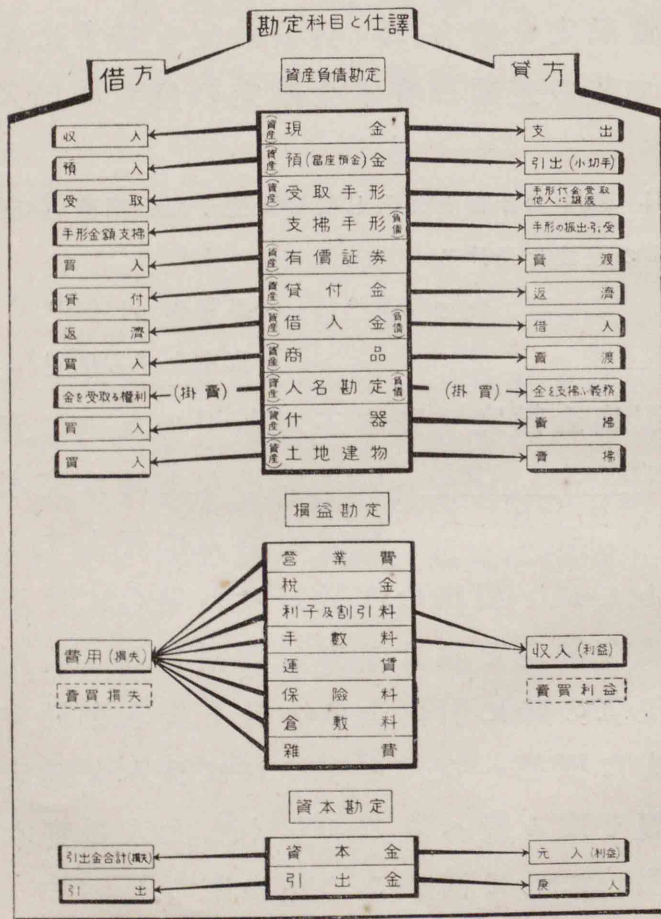
現金	¥ 3,000.00	掛買金	¥ 1,000.00
		資本金	" 2,000.00

引出金勘定 資本主が私用のために資本
(借方) (貸方) 金を引出した時は資本金
引出 戻入 勘定の借方に記入するの
であるが、引出の度數が多い場合には別に
引出金勘定を設ける方が便利である、而し
て決算の時に引出金の合計を資本金勘定の
借方に振替へる、そうすれば資本金勘定の
金額を度々變へることなく、元入の資本金
を明かにして置くことが出来る。

例35. 資本主が私用のために現金を引出した

引出金—現金

(引出金勘定を設けない場合の仕譯 資本金—現金)



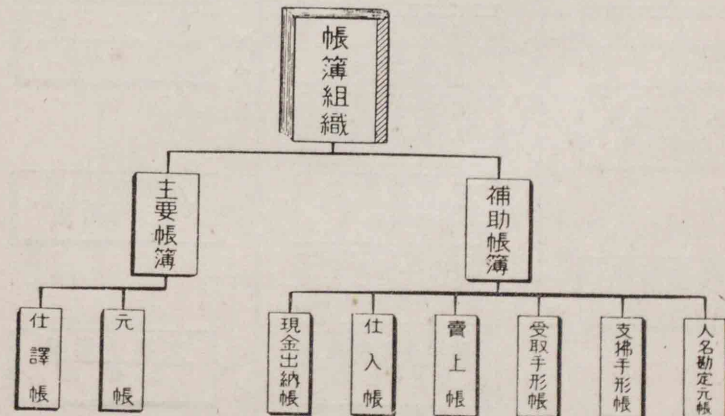
仕訳練習 五十四頁例題記帳の二の取引を仕訳せよ。

第六課 帳簿組織

複式簿記に用ひる帳簿は主要帳簿と補助帳簿とに大別される。

主要帳簿 たる仕訳帳及び元帳は財産及び資本の増減を、すべて記入して帳簿組織の中心をなすものである、然し取引の要點を記入するに過ぎないから重要な事項を明細に記入する補助帳簿を必要とする。

補助帳簿 は各自の商店が營業の種類大小に應じて、適當に設くべきである。

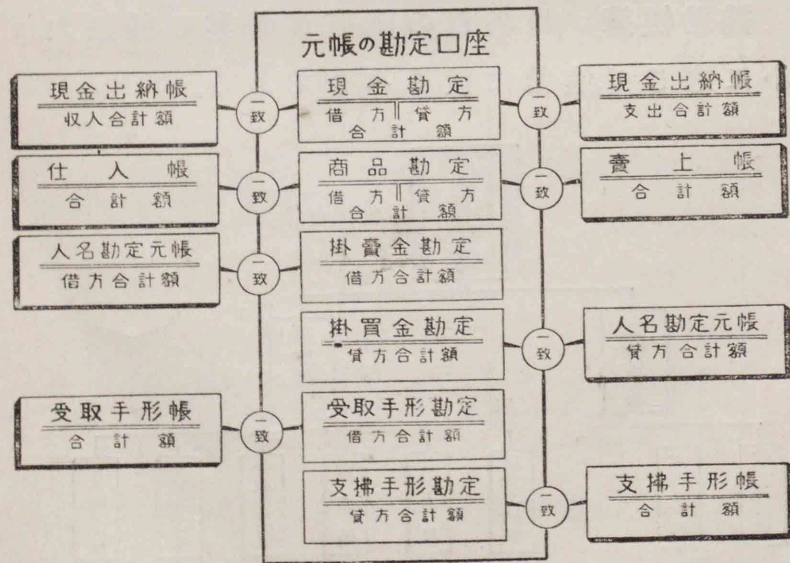


その重なるものは 1)現金出納帳 2)仕入帳 3)賣上帳 4)受取手形帳 5)支拂手形帳 6)人名勘定元帳などである。

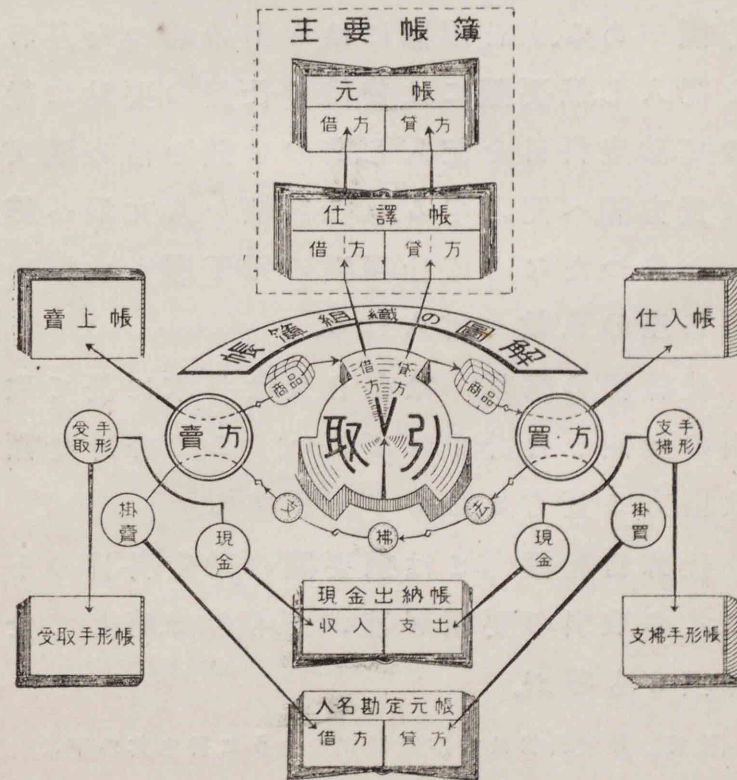
補助帳簿の目的は次の通りである。

- 1) 主要帳簿の記入事項を一層明細にして其の不足を補ふこと。
- 2) 元帳の各口座の記入金額と突合せて誤りを訂正すること。

元帳口座と補助帳簿の関係



商業帳簿の保存 商人は法律の規定に従つて帳簿を備へて毎日の取引を整然且つ明瞭に記入し、書き終つてから十ヶ年間保存すべき義務がある、又帳簿は後日争の起きたとき重要な證據となるものである。



第七課 仕譯帳

仕譯帳 は取引の起る順序に従つて仕譯して記入する帳簿である。

仕譯帳には日附欄、摘要欄、元丁欄、借方欄、貸方欄がある、日附欄には取引の起つた月日を記入し、摘要欄には貸借の仕譯の要點に従つて勘定科目を記入し、其の金額を借方欄又は貸方欄へ記入する。仕譯帳から元帳へ轉記を終つたならば仕譯帳の元丁欄へ元帳の各口座の頁數を書入れる。

仕譯帳の締切 は毎日又は月末に於て取引の金額を合計すればよい。この合計金額は借方と貸方と必らず一致する。

仕譯日記帳 とは摘要欄の勘定科目の下にその取引の要領を書いたもので、略して仕譯帳とも呼ぶ。

[注意] 勘定科目は大字で目立つやうに書き、其の下に取引の要領を小字で書く。

仕 譯 帳

昭和年	摘要	元丁	借方	貸方
7 1	諸口 (資本金) (現金) (當座預金) 現金及當座預金ニテ元入ス	1 2 3		3,000 00
" 2	(營業費) (現金) 開業諸費用現金拂	4 2	20 00	20 00
" 3	(什器) (當座預金) 營業用什器買入レ小切手デ支拂フ	5 3	150 00	150 00
" 4	(商品) (當座預金) 安井商店カラ商品買入レ小切手デ支拂フ	6 3	2,000 00	2,000 00
" 5	(掛賣金) (商品) 中川商店へ掛賣	7 6	1,380 00	1,380 00
" 6	諸口 (商品) (受取手形) (現金) 田村商會へ商品賣渡シ約手#9及現金ニテ代金ヲ受取ル 次葉へ	6 9 2	500 00 190 00	600 00
			7,240 00	7,240 00

(基本問題冊八頁参照)

仕 譯 帳

2

日 附	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
	前葉ヨリ		7,240 00	7,240 00
7 9	(商 品) 諸 口	6	2,000 00	
	(掛 賣 金)	7		1,000 00
	(掛 買 金)	8		1,000 00
	森下商會カラ外國米ヲ買入レ 代金ノ一部中川商店宛爲替手 形#1ヲ振出シ殘額ハ掛トス			
" 10	(受取手形)	9	1,200 00	
	(商 品)	6		1,200 00
	淺野商店へ外國米ヲ賣渡シ代 金ハ同店振出シ爲手#8ヲ受 取ル			
" 20	(商 品)	6	2,100 00	
	(支拂手形)	10		2,100 00
	森下商會カラ内地米ヲ買入レ 代金ハ同商會宛約手#1ヲ渡 ス			
" 25	諸 口 (商 品)	6		1,370 00
	(現 金)	2	1,000 00	
	(掛 賣 金)	7	370 00	
	杉浦商店へ内地米及外國米ヲ 賣渡シ代金ノ一部ハ現金、殘 金ハ掛トス			
	次 葉 へ		13,910 00	13,910 00

(基本問題参照)

仕 譯 帳

3

日 附	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
	前葉ヨリ		13,910 00	13,910 00
7 30	諸 口 (當座預金)	3		70 00
	(倉 敷 料)	11	50 00	
	(保 險 料)	12	20 00	
	東京倉庫へ倉敷料、明治火災 保險會社へ保險料ヲ小切手ニ テ支拂フ			
" 31	(當座預金)	3	370 00	
	(掛 賣 金)	7		370 00
	杉浦商店カラ掛賣代金ノ殘金 ヲ小切手ニテ受取り當座預金 トスル			
" "	(當座預金)	3	500 00	
	(受取手形)	9		500 00
	田村商店振出シ約手#9現金 ニテ受取り當座預金トスル			
" "	(營 業 費)	4	120 00	
	(現 金)	2		120 00
	七月分家賃、給料、雜費等ヲ 支拂フ			
			14,970 00	14,970 00

(基本問題参照)

第八課 元帳

元帳 はすべての資産負債及び資本の増減を明かにして其の残高を知るために用ひる帳簿である、これが爲めに各勘定科目について口座が設けられてある、口座とは各勘定科目の取引を記入する場所である。

仕譯帳は只だ取引の順に記入されるに過ぎないが、元帳に轉記されるれば各勘定科目別に其の増減が直ぐに解る、故に元帳は重要な帳簿である。

轉記の手續 仕譯帳の勘定科目と同名の元帳の勘定口座へ仕譯帳の借方にあるものは借方へ、貸方にあるものは貸方へ轉記する

其の轉記事項は次の通りである。

- 1) 日附
- 2) 摘要 (仕譯の相手になる勘定科目)
- 3) 仕譯帳の頁數 (仕丁欄)
- 4) 金額

元帳へ轉記濟となれば其の勘定科目口座の頁數を仕譯帳の元丁欄へ記入する、これ

は轉記濟のここを示すと共に、後日帳簿を取調べる場合に便利である。

元帳口座の見方 借方の残高は資産で貸方の残高は負債若くは現在の資本である。

元 帳

(借方)				資 本 金				1 (貸方)			
昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額
7	31	繰越	3,480 00	7	1	諸口座	1	3,000 00			
					"	31	損益	13			480 00
			3,480 00								3,480 00
					8	1	繰越				3,480 00

現 金

				2					
昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額		
7	1	資本金	1	500 00	7	2	營業費	1	20 00
"	6	商品	"	190 00	"	31	"	3	120 00
"	25	"	2	1,000 00	"	"	繰越		1,550 00
				1,690 00					1,690 00
8	1	繰越		1,550 00					

(基本問題)

元帳

3

(借方)

當座預金

(貸方)

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
7	1	資本金	1	2,500	00	7	3	什器	1	150	00
"	31	掛賣金	3	370	00	"	4	商品	"	2,000	00
"	"	受取手形	"	500	00	"	30	諸口	3	70	00
						"	"	繰越	✓	1,150	00
										3,370	00
8	1	繰越	✓	1,150	00						

4

營業費

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
7	2	現金	1	20	00	7	31	損益	元13	140	00
"	31	"	3	120	00						
										140	00

5

什器

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
7	3	當座預金	1	150	00	7	31	繰越	元13	120	00
						"	"	損益		30	00
										150	00
8	1	繰越	✓	120	00						

元帳

6

(借方)

商品

(貸方)

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
7	4	當座預金	1	2,000	00	7	5	掛賣金	1	1,380	00
"	9	諸口	2	2,000	00	"	6	諸口	"	690	00
"	20	支拂手形	"	2,100	00	"	10	受取手形	2	1,200	00
"	31	損益	元13	720	00	"	25	諸口	"	1,370	00
						"	31	繰越	✓	2,180	00
										6,820	00
8	1	繰越	✓	2,180	00						

掛賣金

7

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
7	5	商品	1	1,380	00	7	9	商品	2	1,000	00
"	25	"	2	370	00	"	31	當座預金	"	370	00
						"	"	繰越	✓	380	00
										1,750	00
8	1	繰越	✓	380	00						

掛買金

8

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
7	31	繰越	✓	1,000	00	7	9	商品	2	1,000	00
						8	1	繰越	✓	1,000	00

受取手形

9

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額				
1	6	商品	1	500	00	7	31	當座預金	3	500	00
"	10	"	2	1,200	00	"	31	繰越	✓	1,200	00
										1,700	00
8	1	繰越	✓	1,200	00						

元帳

10 支拂手形 (借方) (貸方)

昭和年	摘要	仕丁	金額	昭和年	摘要	仕丁	金額
7 31	繰越	✓	2,100 00	7 20	商品	2	2,100 00
				8 1	繰越	✓	2,100 00

倉敷料

7 30	當座預金	3	50 00	7 31	損益	元13	50 00
------	------	---	-------	------	----	-----	-------

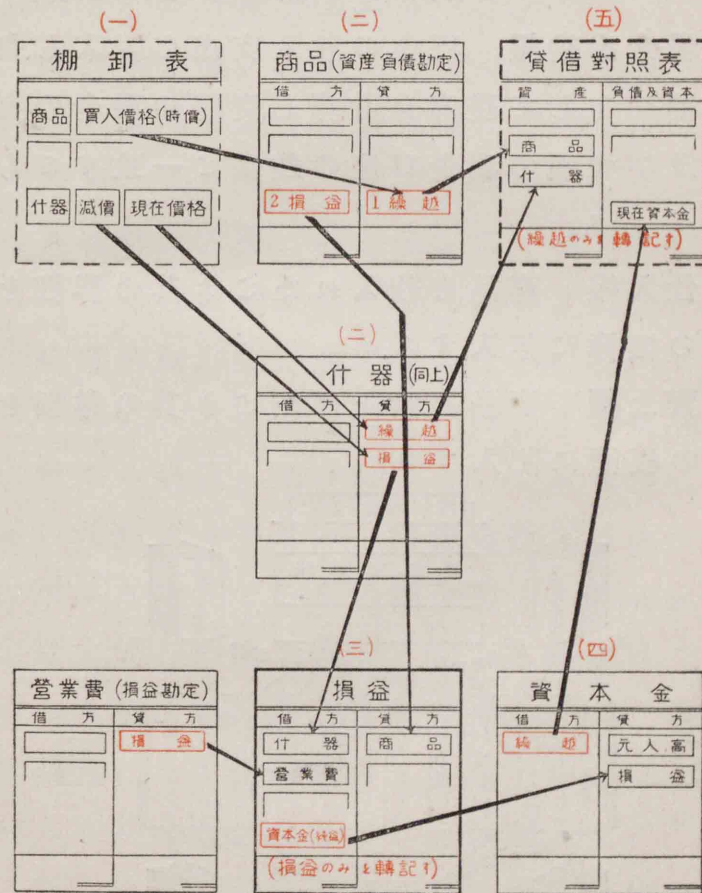
保険料

7 30	當座預金	3	20 00	7 31	損益	元13	20 00
------	------	---	-------	------	----	-----	-------

損益

7 31	營業費	元4	140 00	7 31	商品	元0	720 00
" "	什器	"5	30 00				
" "	倉敷料	"11	50 00				
" "	保険料	"12	20 00				
" "	資本金	"1	480 00				
			720 00				720 00

元帳締切圖解



(すべて反対側に轉記される)

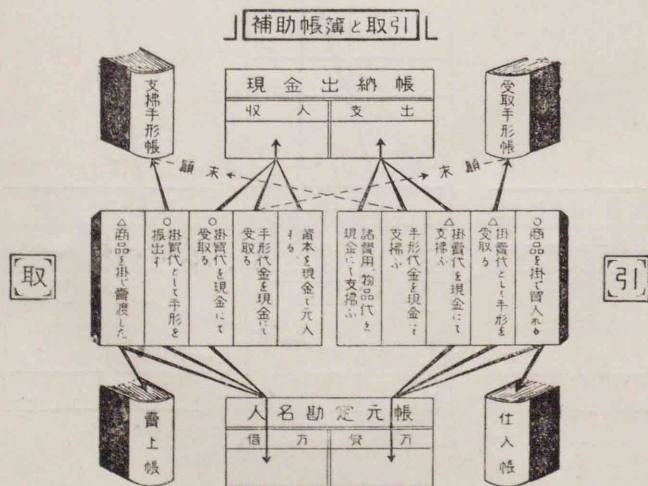
第九課 補助帳簿

(現金出納帳・仕入帳・賣上帳)
(受取手形帳・支拂手形帳・人名勘定元帳)

現金出納帳 現金の収入支出を記入し、毎日締切をして残高を計算し、實際の現金の有高及び元帳の現金口座の残高と一致するものである。

仕入帳 商品を仕入れたとき其の詳細を此の帳簿に記入する。

賣上帳 商品を賣上げたとき其の詳細を此の帳簿に記入する。



受取手形帳 受取手形について明細を記入する帳簿である、顛末欄は入金讓渡又は割引をした日に書入れる。

支拂手形帳 支拂手形について明細を記入する帳簿である、顛末欄は支拂をした日に書入れる。

人名勘定元帳 取引先が多い場合には一人當りの人名勘定を元帳に設けず、一般に掛賣金勘定、掛買金勘定の二つの口座に纏め、別に人名勘定元帳を作成して各取引先に對する貸借を明白にする。これは單式簿記の元帳と大差ない。掛賣金勘定は販賣先に對するもので掛賣金額を借方に、其の返済金額を貸方に記入する。而して残高は常に借方に現はれて掛賣金の残高を示す。掛買金勘定は仕入先に對するもので仕入金額を貸方に、其の返済金額を借方に記入する。その残高は常に貸方に現はれて掛買金の未拂高を示すものである。

受取手形帳

昭和	7	6	10	摘要	商品代金	金額	500	00	種類	約手	番號	9	支拂人	田村商會	振出人裏書人	田村商會	振出日	7	6	10	滿日	7	9	31	支拂場所		類	7	31	末	現金入金直子 二當座振込
"	"	"	"	"	"	1,200	00		爲手		8	8	中山商店	淺野商店	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"						

支拂手形帳

昭和	7	20		摘要	商品代金	金額	2,100	00	種類	約手	番號	1	受取人	木下商會	振出人裏書人	店	振出日	7	20		滿日	8	20	支拂場所		類			末	
"	"	"	"	"	"								當	當	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"						

人名勘定元帳

中川商店 (掛賣金勘定)

1

日附	摘要	仕丁	借方	貸方	借入貸出	殘高
7 5	内地米 60石掛賣		1,380 00		借	1,380 00
" 9	森下商會受取、爲 替手形 #1 振出			1,000 00	"	380 00
" 31	繰越	✓		380 00		
		✓	1,380 00	1,380 00		
8 1	繰越		380		借	380 00

杉浦商店 (掛買金勘定)

2

7 25	内地米30石、外國 米50袋一部掛買	2	370 00		借	370 00
" 31	掛賣金全部回收			370 00		0 -
			370 00	370 00		

森下商會 (掛買金勘定)

3

7 9	外國米 200袋一部 掛買			1,000 00	貸	1,000 00
" 31	繰越	✓	1,000 00			
8 1	繰越	✓		1,000 00	貸	1,000 00

練習問題

- 1) 勘定科目の意味を云ひなさい。
- 2) 勘定科目の種類をあげなさい。
- 3) 次の商品賣買の損益を計算しなさい。
仕入額 $\yen 1,320.00$ 賣上額 $\yen 1,000.00$
棚卸額 520.00
- 4) 主要帳簿と補助帳簿との區別を述べなさい。
- 5) 補助帳簿は何の爲めに作りますか。
- 6) 主要帳簿の名前をあげなさい。
- 7) 仕譯帳から元帳へ轉記する手續を述べなさい。
- 8) 補助帳簿と元帳口座との關係を説明なさい。
- 9) 現金や手形で代金を支拂つた場合に其の取引を記入する補助帳簿の名前をあげなさい。
- 10) 掛賣買の記帳について説明なさい。

内壹千圓は森下商會受取り中川商店宛日附後一ヶ月拂の爲替手形(第一號)を振出し残額は掛とする。

外國米 200袋 @ $\yen 10.00$ $\yen 2,000.00$

十日 淺野商店へ次の通り賣渡し、代金は同店振出し中山商店宛爲替手形(第八號)を受取る、この手形は直に中山商店へ呈示して引受させた(満期日九月卅日)

外國米 100袋 @ $\yen 12.00$ $\yen 1,200.00$

廿日 木下商會から次の通り買入れる。

内地米 100石 @ $\yen 21.00$ $\yen 2,100.00$

代金は同店宛日附後一ヶ月拂の約束手形(第一號)を振出して渡す。

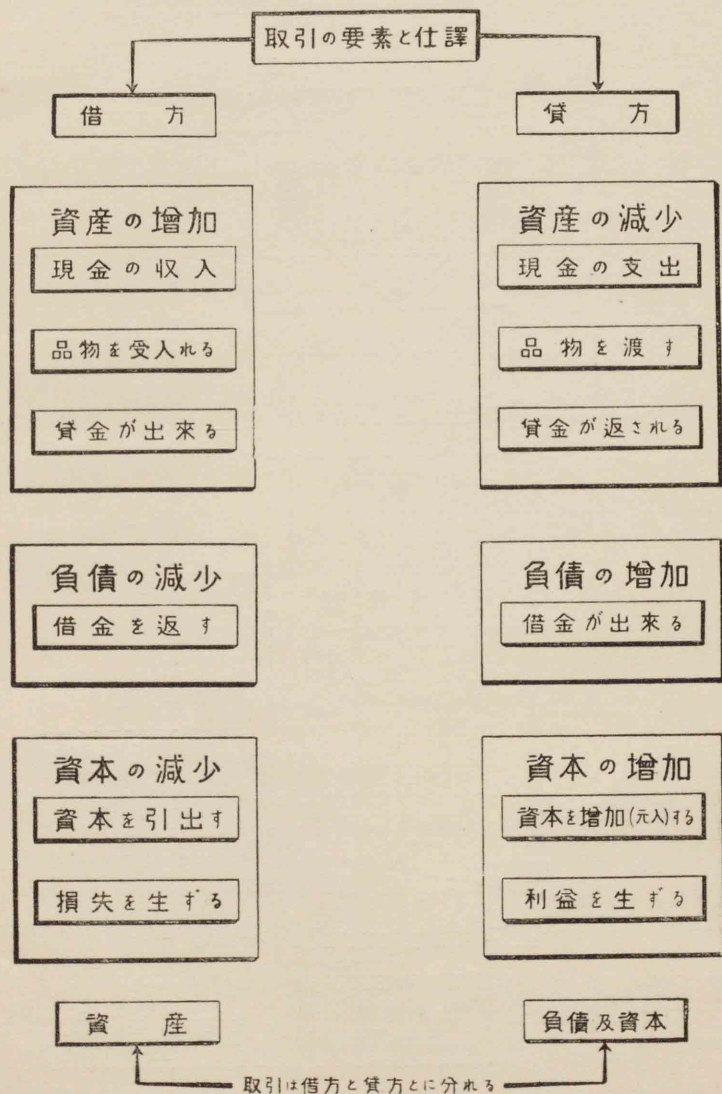
廿五日 杉浦商店へ次の通り賣渡し代金の内千圓は現金で受取り残金は掛とする

内地米 30石 @ $\yen 24.00$ $\yen 720.00$

外國米 50袋 " " 13.00 " 650.00

合計 " $1,370.00$

卅日 東京倉庫株式會社へ商品の倉敷料と



基本問題

昭和 年七月

- 一日 次の通り元入して米穀商を始む。
現金五百圓、當座預金(第百銀行) 貳千五百圓。
- 二日 開業諸費用貳拾圓を現金で支拂ふ。
- 三日 營業用諸什器を買入れ代金百五拾圓 第百銀行宛小切手で支拂ふ。
- 四日 安井商店から次の通り買入れ第百銀行宛小切手にて支拂ふ。
内地米 100石 @ ¥ 20.00 ¥ 2,000.00
- 五日 中川商店へ次の通り掛にて賣渡す。
内地米 60石 @ ¥ 23.00 ¥ 1,380.00
- 六日 田村商會へ次の通り賣渡し内金五百圓は本月末支拂の同店振出の約束手形(第五號)で受取り、残額は現金で受取る
内地米 30石 @ ¥ 23.00 ¥ 690.00
- 九日 森下商會から次の通り買入れ代金の

内
日
出

十日
同
を
呈

廿日

代
形

廿五日
内

卅日

基本問題

昭和 年七月

- 一日 次の通り元入して米穀商を始む。
現金五百圓、當座預金(第百銀行)貳千五百圓。
- 二日 開業諸費用貳拾圓を現金で支拂ふ。
- 三日 營業用諸什器を買入れ代金百五拾圓第百銀行宛小切手で支拂ふ。
- 四日 安井商店から次の通り買入れ第百銀行宛小切手にて支拂ふ。
内地米 100石 @ ¥ 20.00 ¥ 2,000.00
- 五日 中川商店へ次の通り掛にて賣渡す。
内地米 60石 @ ¥ 23.00 ¥ 1,380.00
- 六日 田村商會へ次の通り賣渡し内金五百圓は本月末支拂の同店振出の約束手形(第五號)で受取り、残額は現金で受取る
内地米 30石 @ ¥ 23.00 ¥ 690.00
- 九日 森下商會から次の通り買入れ代金の

内壹千圓は森下商會受取り中川商店宛日附後一ヶ月拂の爲替手形(第一號)を振出し残額は掛とする。

外國米 200袋 @ ¥ 10.00 ¥ 2,000.00

- 十日 淺野商店へ次の通り賣渡し、代金は同店振出し中山商店宛爲替手形(第八號)を受取る、この手形は直に中山商店へ呈示して引受させた(満期日九月卅日)

外國米 100袋 @ ¥ 12.00 ¥ 1,200.00

- 廿日 木下商會から次の通り買入れる。

内地米 100石 @ ¥ 21.00 ¥ 2,100.00

代金は同店宛日附後一ヶ月拂の約束手形(第一號)を振出して渡す。

- 廿五日 杉浦商店へ次の通り賣渡し代金の内千圓は現金で受取り残金は掛とする
- 内地米 30石 @ ¥ 24.00 ¥ 720.00
外國米 50袋 " " 13.00 " 650.00
合計 " 1,370.00

- 卅日 東京倉庫株式會社へ商品の倉敷料を

して五拾圓、明治火災保險會社へ保險料貳拾圓それぞれ第百銀行宛小切手にて支拂ふ。

卅一日 杉浦商店から掛賣代金の残金參百七拾圓は三井銀行宛小切手で受取り直に第百銀行當座預金に振込む。

同日 田村商店振出約束手形(第五號)五百圓を現金で受取り直に當座預金に振込む。

同日 營業諸入費次の通り現金で支拂ふ。

家賃	¥ 40.00	給料	¥ 50.00	雜費	¥ 30.00
				合計	¥ 120.00

同日 決算を行ふ。

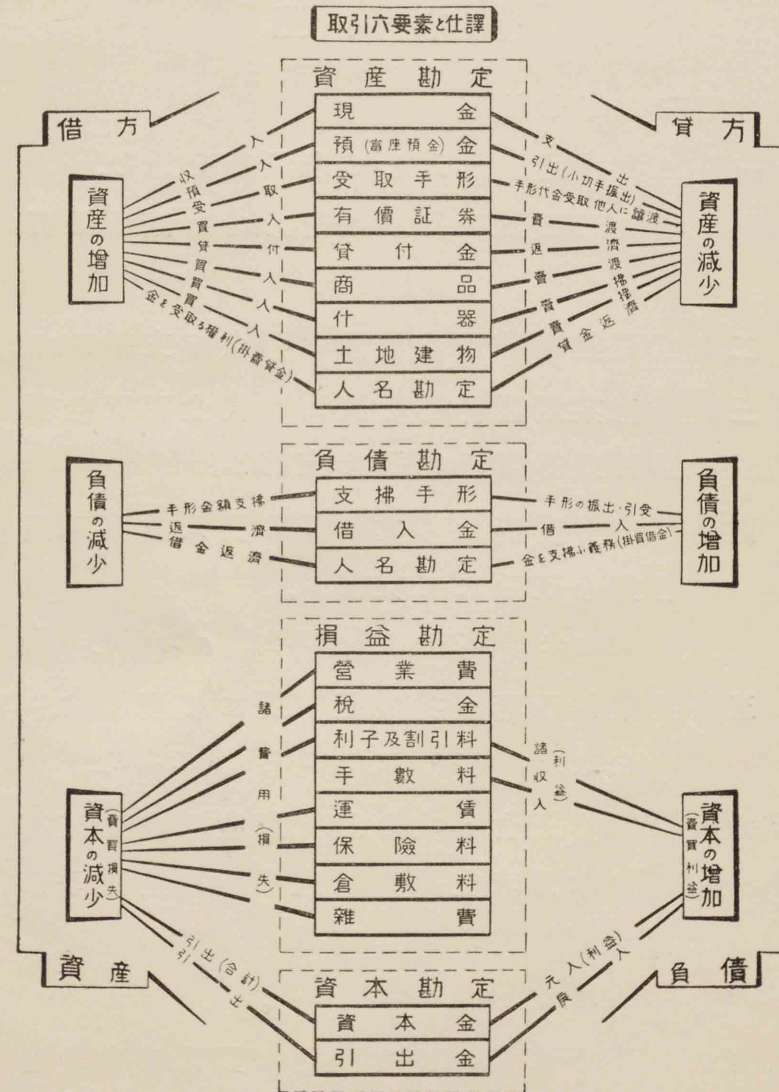
棚卸次の通り

(商品)

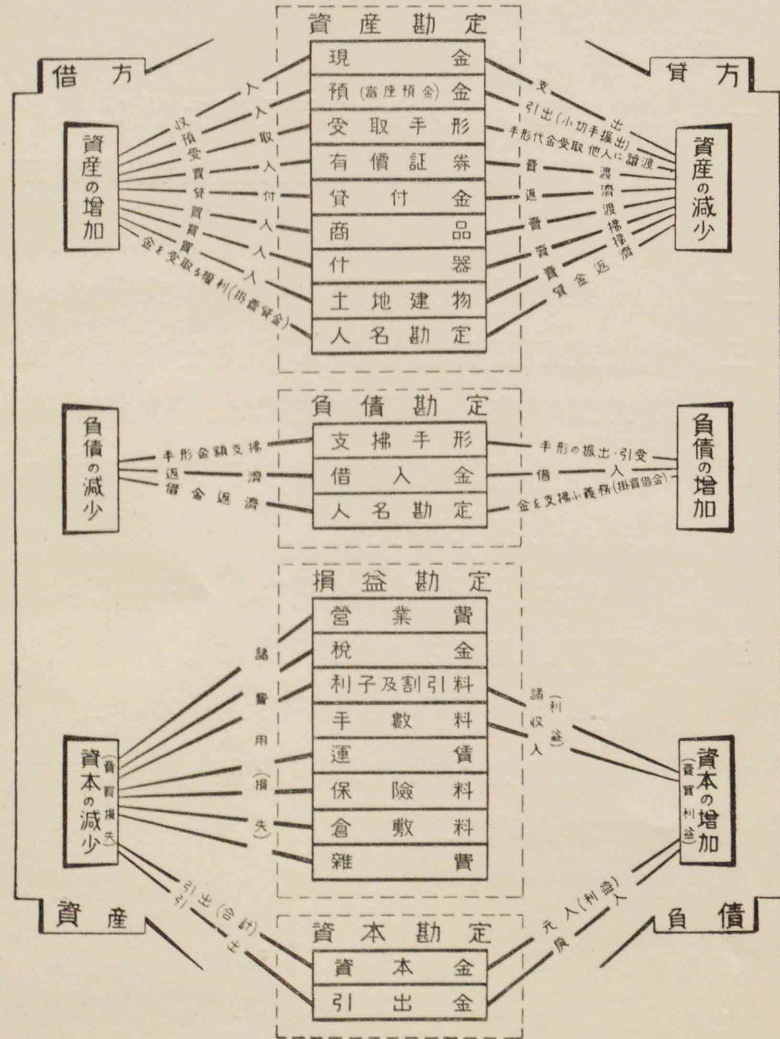
内地米	80石	@ ¥ 21.00	¥ 1,680.00
外國米	50袋	" " 10.00	" 500.00
合計			¥ 2,180.00

(什器)

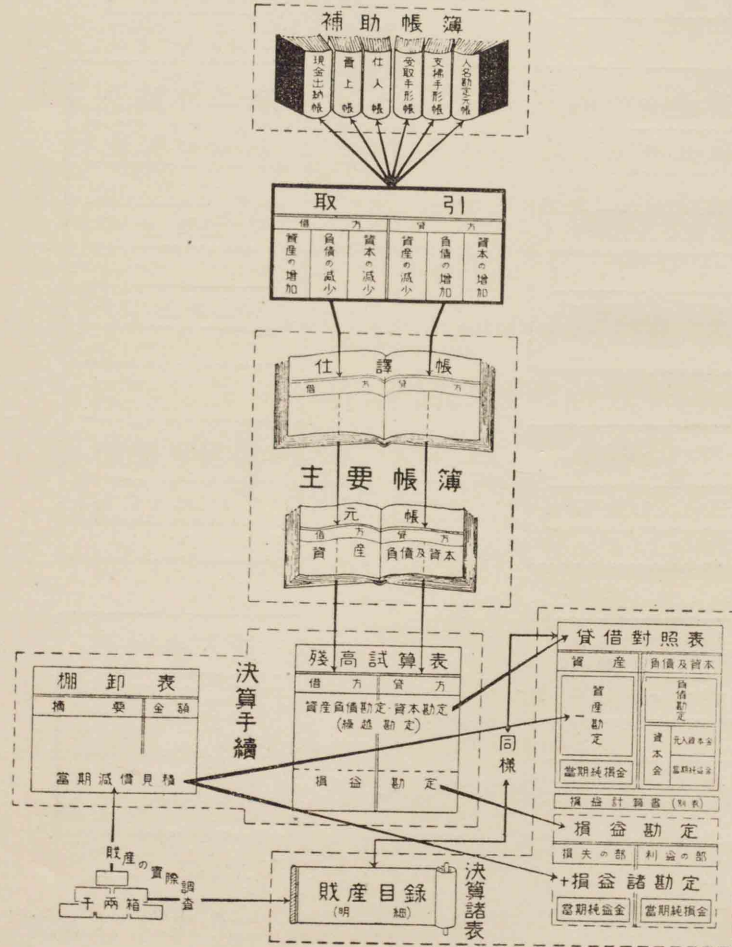
見積價格(貳割減價) ¥ 120.00



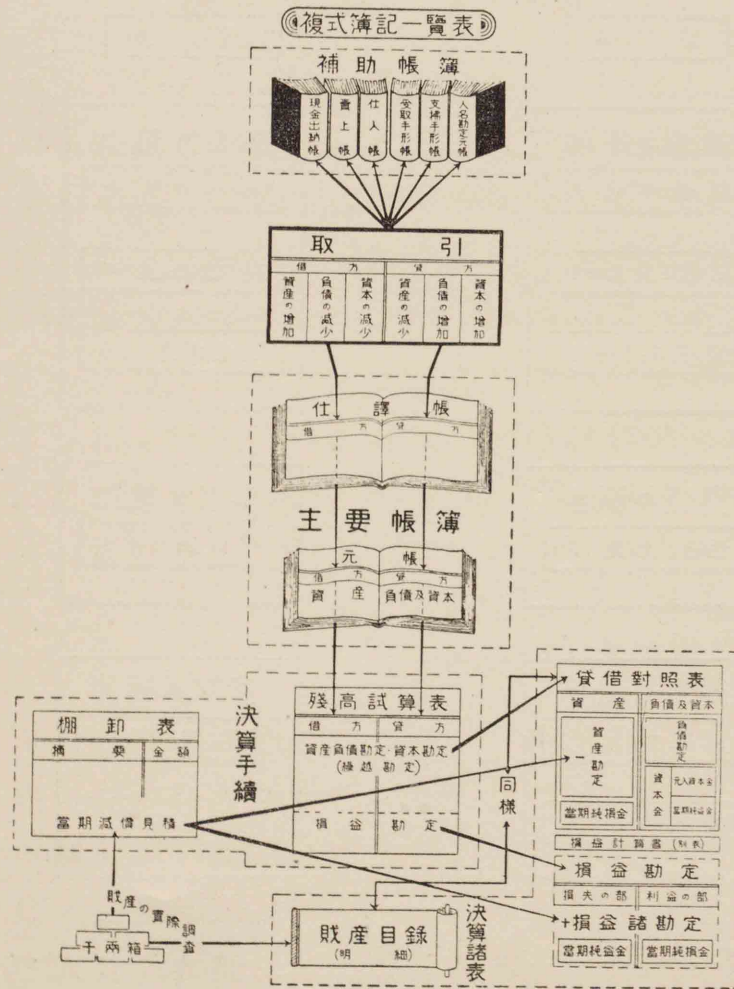
取引六要素と仕訳



複式簿記一覽表



以上
した時
資産、負
れによ
簿を次
決算
回一定
録を調
上の利
り、且
ければ
決算
簿記入
在の財
各口座
借対照
るので



第十課 決算手続

以上のやうにして營業期の終りまで記帳した時には決算を行ひ、其の營業期間内の 1) 資産、負債の増減や 2) 損益の金高を調べ 3) それによつて資本の増減を明かにし 4) 更に帳簿を次期の取引を記入し得るやうにする。

決算の時期 商人は開業の時及び毎年一回一定の時期に於て貸借対照表及び財産目録を調製しなければならない。年に二回以上の利益の配當をする會社は配當期毎に作り、且つ株式會社は貸借対照表を公告しなければならない。

決算の手續 先づ 1) 試算表を作つて帳簿記入の正否を確かめ 2) 棚卸表を作つて現在の財産の實際價格を明かにし 3) 元帳の各口座を締切り、次に 1) 損益計算書 2) 貸借対照表 3) 財産目録の決算諸表を作成するのである。

第十一課 試算表

試算表は元帳の轉記及び計算が正しいか否を確める爲めに毎日又は月末等に作成するものである。試算表は1)合計試算表2)残高試算表3)合計残高試算表の三種類ある。

合計試算表は元帳の各勘定口座の借方と貸方の金額をそれぞれ合計し一表に書き並べたものである、合計試算表の各合計金額は同一である。其の理由は複式簿記に於て或る勘定口座に記入された金額は必らず他の口座の反対側に記入されるから全部の口座を集めた試算表の借方の合計と反対の貸方の合計と一致する。若し相違があれば仕譯帳の記入か元帳の轉記かに誤りがある。

残高試算表は元帳の各勘定口座の借方と貸方との差額を集めて作つたものである。

合計残高試算表は合計試算表と残高試算表とを一諸にしたものである。

合計試算表

昭和 年 7 月 31 日

借方	元 丁	勘定科目	貸方
	1	資本金	3,000 00
1,690 00	2	現金	140 00
3,370 00	3	當座預金	2,220 00
140 00	4	營業費	
150 00	5	什器	
6,100 00	6	商品	4,640 00
1,750 00	7	掛賣金	1,370 00
	8	掛買金	1,000 00
1,700 00	9	受取手形	500 00
	10	支拂手形	2,100 00
50 00	11	倉敷料	
20 00	12	保険料	
14,970 00			14,970 00

残高試算表

昭和 年 7 月 31 日

借方	元丁	勘定科目	貸方
	1	資本金	3,000 00
1,550 00	2	現金	
1,150 00	3	當座預金	
140 00	4	營業費	
150 00	5	什器	
1,460 00	6	商品	
380 00	7	掛賣金	
	8	掛買金	1,000 00
1,200 00	9	受取手形	
	10	支拂手形	2,100 00
50 00	11	倉敷料	
20 00	12	保険料	
6,100 00			6,100 00

第十二課 棚卸表

棚卸表とは全財産を實地に調査し其の價格を定めて一表に作ったものである。その結果元帳の記載金額と相違する場合には之を訂正しなければならない。財産は使用するに従つて減ずるものであるから各營業期毎に財産の價格を減じ其の金額だけを損失として計上する。之を減價銷却といふ。

棚卸表

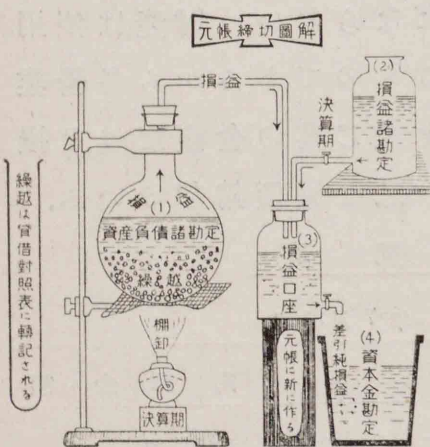
昭和 年 7 月 31 日

勘定科目	摘要	内譯	金額
商品	内地米 80 石 @ y 21.00	1,680 00	
	外國米 50 袋 " " 10.00	500 00	2,180 00
什器	店用諸什器	150 00	
	當期減價見積 (20%)	30 00	120 00
			2,300 00

第十三課 帳簿の締切

仕譯帳及び諸補助帳簿の締切りは金額を合計して簡単に出来る。

元帳の締切は次の手續を要する、1)元帳



の終りに“損益口座”を設ける。

2)棚卸表に記載された金額を元帳の其れに相當する口座へ“繰越”として朱記し借方と貸方との差額を少い

方に損益と朱記する。

3)資産負債(資本金を含まず)の諸勘定科目は借方と貸方との合計金額を比較して其の少い方へ差額を“繰越”と朱記する。

4)損益の諸勘定科目は借方と貸方との差額を“損益”として少い方に朱記する。

5)朱記された損益の諸勘定を損益口座の反対側に黒記する。

6)損益口座に於て借方と貸方との差額を資本金として少い方へ朱記する。少い方が借方であれば利益で、貸方であれば損失である。これは純損益金を示すもので資本金勘定の反対側へ“損益”と黒記する。

7)資本金口座に於て借方と貸方との差額を其の少い方に“繰越”として朱記する。

8)かやうにして元帳の全部の勘定口座の貸借を平均してそれぞれ締切る。

9)各口座の繰越として朱記されたものは翌日附で反対側に“繰越”として黒記する。其後の取引は今までの通りに記帳すればよい。

[注意] 損益口座や資本金口座へ転記するときは転記した相手の元帳丁数を仕丁欄へ記入する、又繰越の記入は同一口座であるから双方へ√(チェック・マーク)を附して置く。

第十四課 損益計算書

損益計算書は或営業期間に於ける損益の金額を示すもので元帳の損益口座を一層明細に表示したものと思へばよい。

損益計算書は借方を損失の部、貸方を利益の部として利益及び損失の金額をそれぞれ記入し、利益と損失とを比較し、純損益を明かにして商店経営について参考になる重要なものである。

この損益計算書の純損益の金額は貸借対照表の純損益の金額と一致する。

損益計算書は単に損益表とも呼ぶ。

[注意] 猶ほ商品仕入高、賣上高は商品勘定から轉記したものである、仕入高から現在ある商品の棚卸高を引いたものは賣上品の原價を示すもので、賣上高から賣上品の原價を引いたものは商品賣買益を示すものである。

損益計算書

自昭和 年 7 月 1 日
至昭和 年 7 月 31 日

損失ノ部	金額	利益ノ部	金額
營業費	140 00	商品賣上高	4,640 00
倉敷料	50 00	仕入高 y 6,100.00	
保険料	20 00	棚卸高 " 2,180.00	
什器減價銷却	30 00	賣上品原價	3,920 00
總損失	240 00	商品賣買益	720 00
當期純益金	480 00		
	720 00		720 00

損益計算書

損失ノ部	利益ノ部
損益諸勘定(損失)	損益諸勘定(利益)
什器減價銷却(什器勘定損益 又ハ棚卸表)	商品賣上高(商品勘定貸方合計 又ハ賣上帳)
總損失=損失+減價	仕入高(商品勘定借方合計 又ハ仕入帳)
	棚卸高(商品勘定繰越 又ハ棚卸表)
	賣上品原價=仕入高-棚卸高
當期純益金	商品賣買益=商品賣上高-賣上品原價
	當期純損金

第十五課 貸借対照表及財産目録

貸借対照表 は決算日の資産、負債及び資本の状態を一表で示したものである。

元帳口座に於て貸方に“繰越”と朱記したものを此の表の資産の部へ、借方に“繰越”と朱記したものを此の表の負債の部へ記入して作成するものである。

貸借対照表の借方の金額と貸方の金額との差額は純損益を示すものであるから損益計算書の純損益の金額と正確に一致する。

貸借対照表

昭和 年 7 月 31 日

資 産	金 額	負 債 及 資 本	金 額
現 金	1,550 00	掛 買 金	1,000 00
當座預金	1,150 00	支拂手形	2,100 00
什 器	120 00	資 本 金	
商 品	2,180 00	元入高 ¥ 3,000.00	
掛 賣 金	380 00	当期純益 ¥ 480.00	3,480 00
受取手形	1,200 00		
	6,580 00		6,580 00

財産目録 は資産、負債を明細に書いたものである。其の作成方法に於ても貸借対照表は帳簿上からするも、財産目録は個々の財産を調べて記載するものである。

財 産 目 録

昭和 年 7 月 31 日

勘定科目	摘 要	内 譯	金 額
<u>資 産 ノ 部</u>			
現 金	手許有高		1,550 00
當座預金	第百銀行預金		1,150 00
什 器	店用諸什器	150 00	
	(差引)減價銷却高	30 00	120 00
商 品	棚卸高		
	内地米 80石 @ ¥ 21.00	1,680 00	
	外國米 50袋 " " 10.00	500 00	2,180 00
掛 賣 金	得意先一口 中川商店		380 00
受取手形	一口 淺野商店振出爲手 # 8		1,200 00
			6,580 00
<u>負 債 ノ 部</u>			
掛 買 金	仕入先一口 森下商會		1,000 00
支拂手形	一口 木下商會宛約手 # 1		2,100 00
			3,100 00

例題記帳の一

帳簿組織 { 主要帳簿 仕譯帳・元帳
補助帳簿 現金出納帳・仕入帳・賣上帳

昭和 年六月

一日 現金壹千圓を以て物品賣買業を始む

五日 岡本商店より商品を買入れ現金拂す

石油 八箱 參圓替 金貳拾四圓也

砂糖 八俵 拾六圓" 金百貳拾八圓也

白米 拾石 貳拾圓" 金貳百圓也

合計 金參百五拾貳圓也

十日 山口商店へ商品を賣渡し現金で受取る。

石油 四箱 四圓替 金拾六圓也

十五日 野田商店へ商品を掛にて賣る。

石油 貳箱 四圓替 金八圓也

砂糖 四俵 貳拾圓" 金八拾圓也

合計 金八拾八圓也

廿日 上村屋へ商品を賣渡し代金の内貳拾五圓を現金で受取り残額を掛とする。

石油 貳箱 四圓替 金八圓也

砂糖 四俵 貳拾圓" 金八拾圓也

白米 拾石 貳拾參圓" 金貳百參拾圓也

合計 金參百拾八圓也

廿五日 岡本商店より商品を買入れ金壹百貳拾圓を現金にて支拂ひ残額を掛とする

石油 八箱 參圓替 金貳拾四圓也

砂糖 四俵 拾六圓" 金六拾四圓也

白米 四石 貳拾圓" 金八拾圓也

合計 金壹百六拾八圓也

廿八日 上村屋より掛代金の内入として現金壹百圓を受取る。

廿九日 岡本商店へ掛代金の内拂として現金參拾圓を支拂ふ。

卅日 本月分營業費參拾圓現金で支拂ふ。

同日 本日決算を行ふ、棚卸次の通り

石油 八箱 參圓替 金貳拾四圓也

砂糖 四俵 拾六圓" 金六拾四圓也

白米 四石 貳拾圓" 金八拾圓也

例題記帳の二

帳簿組織	{	主要帳簿	{元帳・仕譯帳
		補助帳簿	{現金出納帳・仕入帳・賣上帳 受取手形入帳 支拂手形入帳 人名勘定元帳

昭和 年七月

- 一日 現金貳千圓を元入して營業を始む。
 二日 三井銀行に當座勘定を開き現金壹千五百圓を當座預金とする。
 五日 運搬用自轉車其他營業用器具を買入れ、この代金壹百圓を現金にて支拂ふ。
 八日 小島商店より次の通り買入れ代金は掛さす。

白砂糖	50袋	@ ¥ 24.00	¥ 1,200.00
赤砂糖	50 "	" " 20.00	¥ 1,000.00

- 十二日 山下商店へ次の通り賣渡し代金の内六百圓は小切手にて受取り、残額を掛さす、小切手は三井銀行の當座預金とする

白砂糖	20袋	@ ¥ 30.00	¥ 600.00
赤砂糖	25 "	" " 26.00	" 650.00

- 十五日 小島商店へ掛買金貳千貳百圓に對し八月八日満期日の約束手形第壹號を振出して渡す。
 廿日 山下商店への掛賣金の残額六百五拾圓に對し同店振出し八月廿日満期日の約束手形第五號を受取る。
 廿五日 谷村商店へ次の通り賣渡し代金は掛さす。

白砂糖	25袋	@ ¥ 30.00	¥ 750.00
赤砂糖	25 "	" " 26.00	" 650.00

- 廿八日 山下商店振出しの約束手形第五號六百五拾圓を三井銀行について割引を求め割引料參拾圓を差引き手取金を現金にて受取る。

- 卅一日 本月分營業費四拾圓現金で支拂ふ。

- 同日 本日決算を行ふ、棚卸次の通り。

(商品)	白砂糖	5俵	@ ¥ 24.00	¥ 120.00
------	-----	----	-----------	----------

(營業用什器)

運搬用自轉車其他	(減價 ¥ 10.00)	¥ 90.00
----------	--------------	---------

例題記帳の三

帳簿組織 { 主要帳簿 { 仕譯帳・元帳
現金出納帳・仕入帳・賣上帳
補助帳簿 { 受取手形帳・支拂手形帳
得意先元帳・仕入先元帳

- 12/1 次の通り元入して米穀店を開業す。
現金 ¥500.00 當座預金(安田銀行) ¥2,500.00
- "/2 開業諸費用 ¥30.00 現金にて支拂ふ。
- "/3 營業用諸什器を買入れ、代金 ¥200.00 現金にて支拂ふ。
- "/4 廣田商店より次の通り掛にて買入る。
内地米 100石 @ ¥20.00 ¥2,000.00
- "/5 中山商店へ次の通り掛にて賣渡す。
内地米 60石 @ ¥23.00 ¥1,380.00
- "/6 田内商店へ次の通り賣渡し内金 ¥500.00 は本月末支拂の同店振出し約束手形 # 8 にて受取り残額は現金にて受取る。
内地米 30石 @ ¥23.00 ¥690.00
- "/7 電話買入れ代金 ¥500.00 安田銀行宛小切手で拂ひ別に取付費 ¥10.00 現金にて支拂ふ。

- 12/8 廣田商店へ掛買代金の内 ¥1,500.00 安田銀行宛小切手にて支拂ふ。
- "/9 森商會より次の通り買入る。
外國米 300袋 @ ¥10.00 ¥3,000.00
代金の内壹千圓は森商會受取り中山商店宛日附後一ヶ月拂爲替手形 # 1 を振出し残額は掛さす。
- "/10 淺田商店へ次の通り賣渡す。
外國米 200袋 @ ¥12.00 ¥2,400.00
代金として同店振出し、中山商店宛爲替手形 # 7 を受取る、この手形は直ちに中山商店に呈示して引受させる。(満期日一月廿日)
- "/11 高山商店へ次の通り賣渡す。
内地米 10石 @ ¥23.00 ¥230.00
外國米 100袋 " " 12.00 " 1,200.00
代金は住友銀行宛小切手にて受取り直ちに安田銀行の當座預金さす。
- "/13 廣田商店より次の通り掛にて買入る
内地米 100石 @ ¥20.00 ¥2,000.00
外國米 300袋 " " 10.00 " 3,000.00

12/14 中山商店より掛賣代金残額 ¥380.00 現金
で受取り直ちに安田銀行當座預金とす。

"/15 友川商店へ次の通り賣渡し代金の内半
額を現金にて受取り残額を掛とす。

外國米 100袋 @ ¥ 12.00 ¥ 1,200.00

"/17 杉浦商店へ次の通り掛にて賣渡す。

内地米 60石 @ ¥ 23.00 ¥ 1,380.00

"/20 片井商店へ次の通り現金にて賣渡す。

外國米 50袋 @ ¥ 12.00 ¥ 600.00

"/25 木下商會より次の通り買入れる。

内地米 100石 @ ¥ 21.00 ¥ 2,100.00

代金は同店宛、日附後一ヶ月拂の約束手形
#1 を振出して渡す。

"/28 杉浦商店へ次の通り賣渡し代金の内 ¥
1,000.00 は現金にて受取り残金も掛とす。

内地米 30石 @ ¥ 23.00 ¥ 690.00

外國米 50袋 // // 12.00 // 600.00

"/29 現金 ¥100.00 を安田銀行當座預金に振込
む。

"/30 京阪倉庫株式會社へ商品保管料として
倉敷料 ¥ 80.00 住友銀行宛小切手にて支拂
ふ。

"/31 杉浦商店より掛賣代金の内 ¥1,300.00 は
第百銀行宛小切手#25にて受取り直に安
田銀行當座預金とす。

"/ 田内商店振出し約束手形#8 現金にて
受取り直ちに安田銀行當座預金に振込む

"/ 本月分營業費次の通り現金にて支拂ふ

家賃 ¥ 50.00

給料 " 70.00

雜費 " 40.00

合計 " 160.00

"/ 本日決算を行ふ。棚卸次の通り

(商品)

内地米 110石 @ ¥ 21.00 ¥ 2,310.00

外國米 100袋 " " 10.00 " 1,000.00

合計 " 3,310.00

(什器)

現在見積價格(價減 ¥ 10.00) ¥ 190.00

第十六課 仕譯帳の分割

現金出納帳
普通仕譯帳

同種類の取引が多い場合には普通仕譯帳の他に特別仕譯帳を用ひるのが便利である。現金出納帳、仕入帳、賣上帳などを特別仕譯帳とすることがある。

現金出納帳を特別仕譯帳とすれば 1) 現金取引の仕譯帳の記入を省き 2) 元帳の現金口座へ轉記する手数を減じ 3) 仕譯帳の記入を分擔せしめることが出来る。

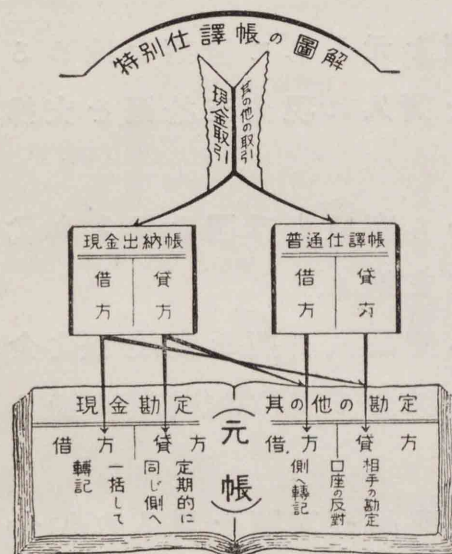
現金出納帳を特別仕譯帳とするには

- 1) 摘要欄に現金取引の相手の勘定科目を記入する欄を設け勘定科目欄とする。
- 2) 元丁欄を新に作る。

記入法 普通の現金出納帳の記入と同様であるが唯現金取引の相手の勘定科目名を勘定科目欄に、取引の要點を摘要欄に記入し、其他の取引は普通仕譯帳に記入する。

轉記法 元帳へ轉記するには収入側(借方)

の記入ならば元帳の相手の勘定口座の貸方(反対側)に轉記し、支出側(貸方)の記入ならば元帳の相手の勘定口座の借方に轉記する、かやうに反対側へ轉記するのは現金勘定が借方なれば相手の勘定は當然に貸方に記入さるべきであるのを省いて單に現金出納帳の摘要欄に記入し、其れから轉記する爲めである。



現金勘定の元帳への轉記は毎日或は一週間目、十日目といふやうに時を定めて合計金額を借方は借方へ、貸方は貸方へ纏めて轉記する、かやうにすれば普通の仕譯帳を用ひて元帳へ轉記したのと同じの結果になる。

基本問題について注意を要するのは四日五日及び八日の取引である。

四日の取引は現金出納帳と普通仕譯帳との両方に記入される。現金出納帳は前例の通りであるが普通仕譯帳にはそれと同時に

(借方) 掛賣金(大村商店) ¥ 300.00 (貸方) 商品 300.00

五日の取引も同様に一取引が二つの帳簿に分れ普通仕譯帳には

(借方) 商品 ¥ 200.00 (貸方) 掛買金(三島屋) ¥ 200.00

と記入される。

八日の取引は現金出納帳には関係ない。これは普通仕譯帳にのみ記入される。

(借方) 掛賣金(中山商店) ¥ 700.00 (貸方) 商品 ¥ 700.00

これ等の取引は何れも普通仕譯帳から元帳の各口座に轉記される。それ故現金出納帳と普通仕譯帳との二方面に分けて記入しても其の結果に於ては仕譯帳から元帳へ轉記されたものと同一になる。

練習問題

- 1) 現金出納帳を特別仕譯帳に使用する効能を述べよ。
- 2) 現金出納帳を特別仕譯帳とする場合に用ひる形式を説明せよ。
- 3) 現金出納帳より元帳へ轉記する手續を述べよ。
- 4) 其の場合に現金の相手の勘定を何故に元帳の反対側に轉記するか。
- 5) 又現金を元帳へ轉記する場合に一括して同じ側に轉記する理由を説明せよ。
- 6) 現金出納帳を特別仕譯帳として使用するのは如何なる取引を多く行ふ商店に適當してゐるか。
- 7) 次の取引を仕譯し其の記入帳簿を示せ。
 - イ 商品五百圓を買入れ代金の内參百圓を支拂ひ、殘額を掛とす。
 - ロ 掛買金殘額貳百圓を現金にて支拂ふ

例題記帳の四

帳簿組織 主要帳簿 普通仕譯帳
現金出納帳 } 元帳

昭和 年二月

2/1 中野正雄は壹千五百圓、本山榮一は壹千圓、何れも現金を出資し共同にて旭商會を開業した(現金出納帳)

2/2 山村太助より家屋壹棟を現金にて買入れる。この代金壹千貳百五拾圓(現)

2/5 山本商店より次の通り掛にて買入れる(普通仕譯帳)

石油 100箱 @ ¥ 8.00 ¥ 800.00

2/7 田中商店へ次の通り賣渡し、代金は本月十七日限りの同店振出し約束手形#9を受取る(仕)

石油 50箱 @ ¥ 9.00 ¥ 450.00

2/9 石田商店より次の通り現金にて買入れる(現)

軽油 50箱 @ ¥ 10.00 ¥ 500.00

2/11 村上商店へ次の通り掛にて賣渡す(仕)

石油 50箱 @ ¥ 10.00 ¥ 500.00

軽油 25箱 // // 12.00 // 300.00

2/13 星商會より次の通り買入れ代金は本月廿四日拂當店宛同店受取の爲替手形#1を振出して渡す(仕)

石油 150箱 @ ¥ 9.00 ¥ 1,350.00

引取車力賃拾五圓現金にて支拂ふ(現)

2/15 上原商店へ次の通り現金にて賣渡す(現)

軽油 25箱 @ ¥ 12.00 ¥ 300.00

2/17 山本商店へ掛買代金の内五百圓を現金にて支拂ふ(現)

2/18 田中商店より約束手形#9の代金四百五拾圓を現金にて受取る(現)

2/20 上原商店へ次の通り賣渡し代金の内五拾圓は現金にて受取り、残額五百五拾圓は木下商店振出の約束手形#10を譲受ける手形支拂期日三月卅日(仕、現)

石油 50箱 @ ¥ 12.00 ¥ 600.00

2/22 村山商店より掛賣代金の内五百圓を現金にて受取る(現)

"/24 星商會へ爲替手形#1の代金壹千參百五拾圓を現金にて支拂ふ(現)

"/27 本月分營業費五拾圓を現金にて支拂ふ(現)

"/28 本日決算を行ふ
棚卸次の通り

(商品)

石油 100箱 @ ¥ 8.00 ¥ 800.00

輕油 在庫品無し

(家屋)

買入價格 ¥ 1,250.00

減價銷却壹割 " 125.00

現在評價額 ¥ 1,125.00

棚卸合計 " 1,925.00

—(卷二終)—

高等小學簿記書

昭和七年九月廿五日 印刷
昭和七年九月廿八日 發行
昭和七年十二月廿三日 訂正再版印刷
昭和七年十二月廿六日 訂正再版發行



定 價	
一卷	金貳拾錢
二卷	金貳拾貳錢

著 作 者	發 行 者	印 刷 者	印 刷 所
田 中 滿 三	金 井 基 祐	村 田 善 彦	株式會社 大倉印刷所 東京市京橋區湊町三丁目十二番地一

發行所 彰文館 東京市神田區錦町一丁目十二番地 振替東京六一九六番

特約店

東京市神田區錦町地

文修堂

大阪市東區橫堀地

三宅書店

